

論文審査の結果の要旨及び担当者

報告番号	博（医）甲第1262号	氏 名	出雲 剛
論 文 審 査 担 当 者		主査教授	近藤 宇史
		副査教授	松山 俊文
		副査教授	永山 雄二
論文審査の結果の要旨 1 研究目的の評価 本研究は、治療困難な下垂体悪性腫瘍に対して、治療効果の高い新しい遺伝子治療法を開発しようとしたもので、目的は十分に妥当である。 2 研究手法に関する評価 ラット成長ホルモン産生悪性下垂体腫瘍細胞株 metastatic GH3(mGH3)を用い、in vitro 及び mGH3 皮下移植ヌードマウスでの in vivo で単純ヘルペスウイルスチミジンキナーゼ (HSV-TK) の自殺遺伝子導入法を検討したもので、研究手法も妥当である。 3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、EB ウイルスベクター (pEBG) を用いて HSV-TK 遺伝子を導入する手法が最も高い導入率と抗腫瘍効果が得られることを明らかにした。遺伝子治療法による下垂体腫瘍の治療法の確立と臨床応用の進展が大いに期待される。 以上のように本論文は癌治療の進展に貢献するところが大であり、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。			